

## 地域文化が育んだ 美術館・博物館の名品展



左上：変り織縮緬塚出友禅訪問着 「流文」  
羽田登喜男  
京都府京都文化博物館

右上：猿投 灰釉多口瓶 重要文化財  
愛知県陶磁資料館

左下：根来塗 足付鉢  
和歌山県立博物館

### 特別陳列

## 加賀藩の美術工芸

前田育徳会尊經閣文庫分館

### ■ 秋の優品選

第2～6展示室

- 9月前半の展示
- 9月からの土曜講座
- 行事予定
- 文化財現地見学予告
- 所蔵品紹介

# 博物館の名品展

平成23年9月11日(日)～10月23日(日)会期中無休

## 学芸員の眼

当館の分は、第5展示室で八部門・四十七点を展示しますが、九谷焼では、古九谷・吉田屋窯から現代の三代徳田八十吉、吉田美統、二代浅蔵五十吉、武腰敏昭の作品。大樋焼では、初代大樋長左衛門と十代大樋長左衛門。輪島塗では、前大峰、塩多慶四郎、前史雄、小森邦衛、三谷吾一。金沢漆器では、五十嵐様式の硯箱と現代の松田権六、大場松魚、寺井直次、中野孝一の作品。加賀友禅では、江戸時代の友禅亀上仙人図と現代の木村雨山、二塚長生の作品。加賀象嵌では、江戸時代の象嵌燈と現代の中川の作品。銅鑼では、初代魚住為楽、三代魚住為楽。山中木工では、川北良造の作品が主な作品となります。重要無形文化財保持者十六人、日本芸術院会員四人を含む豪華な作家層は、石川県工芸の歴史と層の厚さ、レベルの高さを如実に示すものといえます。

前号の企画展 Topics で陶磁器を特集いたしましたので、今回はそれ以外の部門の主な展示作品を紹介します。

高岡銅器では、藤林峯親の獅子麒麟文金銀象嵌花瓶、この作品は明治十年頃の製作ですが、『大日本加賀国円中仕入越中国金森宗七製高岡住藤林峯親作』の銘を持っています。この頃の工芸品の製作の仕組み、職人、問屋、貿易商、の関係を表す、そのものずばりの銘といえると思えます。同じく明治十年第一回内国勸業博覧会出品作で二代横山弥左衛門の武人文彫金大香炉、金森映井智の鑄銅象嵌花器、大澤光民の鑄ぐるみ鑄銅花器。友禅では、森口華弘の友禅訪問着「光と影」、羽田登喜男の堰出友禅訪問着「流文」。西陣織では、喜多川平朗の萌黄勝負見菱蝶文二倍織物袴、細見華岳の綴帯「春花」。紀州漆器では、根来塗足付鉢、

根来塗瓶子、根来塗角切折敷、偕楽園御庭塗堆朱屈輪硯箱。香川漆器では、玉椿象谷の堆朱紅葵饌盒、磯井如真の瑞鳥菟醬香盆、音丸耕堂の彫漆水仙手箱、磯井正美の菟醬色紙箱「思草」、太田儔の籃胎菟醬茶箱「春風」。琉球漆器では、朱漆沈金山水人物食籠、朱漆山水樓閣人物堆錦東道盆、朱塗松竹梅箔絵タークル。琉球紅型では、白地葵菊水模様紅型着物、玉那覇有公の芭蕉蔓草文様両面紅型衣装。首里織では、宮平初子の絹浅葱地花倉織着物。宮古上布では、苧麻紺地経緯縹着物、下地恵康の麻紺地宮古上布着物。喜如嘉の芭蕉布では、芭蕉布朱地経緯上衣、平良敏子の芭蕉黄色地総縹上衣。読谷山花織では、読谷山花織着物、與那嶺貞の読谷山花織踊衣装（短衣と袴）。久米島紬では、久米島紬（絹格子に縹縹）、久米島縹古裂対応御絵図など、バラエティーに富む内容となります。



鑄ぐるみ鑄銅花器「響韻」 大澤光民  
高岡市美術館



籃胎菟醬茶箱「春風」 太田儔  
高岡市美術館

# 地域文化が育んだ美術館

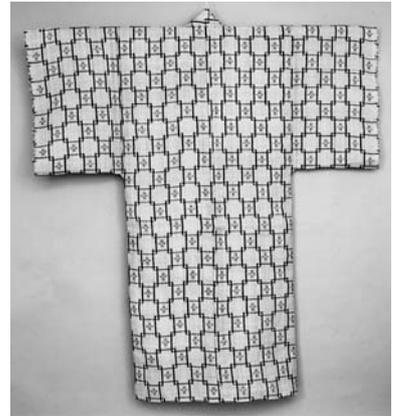
主催／石川県立美術館 後援／日本博物館協会



瑞鳥蒔醬香盆 磯井如真  
高松市美術館



芭蕉蔓草文様両面紅型衣裳 玉那覇有公  
沖縄県立博物館・美術館



芭蕉黄色地総緋上衣 平良敏子  
沖縄県立博物館・美術館



武人文彫金大香炉 横山弥左衛門(二代)  
高岡市美術館



根来塗 瓶子  
和歌山県立博物館

※展覧会観覧料が必要です。  
九月十八日・二十五日  
十月九日・十六日・二十三日  
学芸員によるギャラリートーク  
日時／左記の日曜日 午前十一時～  
午後一時三〇分

会場／美術館ホール ※聴講無料

講演会  
演題／「日本各地に息づく伝統工芸」  
講師／嶋崎丞当館館長  
日時／十月二日(日)  
午後一時三〇分

■関連行事



蓬萊之棚 松田権六  
石川県立美術館



萌黄勝見菱蝶文二倍織物袷 喜多川平朗  
京都府京都文化博物館

開館時間  
午前九時三〇分～午後六時まで  
(入館は午後五時三〇分まで)

■観覧料

|      |              |
|------|--------------|
| 一般   | 一、〇〇〇円(八〇〇円) |
| 大学生  | 六〇〇円(五〇〇円)   |
| 高中小生 | 三〇〇円(二〇〇円)   |

( )内は二名以上の団体料金

## 加賀藩の美術工芸

9月10日(土)～10月23日(日)会期中無休

前田育徳会  
尊經閣文庫分館

## 学芸員の眼

加賀藩の美術工芸というテーマは、おのずと「収集」と「育成」という視点へと展開します。洋の東西を問わず、封建領主が美術工芸の名品や聖典などの貴重な写本類を高い価値を払って収集することや、画家や音楽家などの有力なパトロンとなって創作活動を支援すること。そして、そのような領主の活動が地域の文化風土を育んだ例は数多くあります。

領主の文化活動は、単なる個人的な趣味や娯楽を越えた、ある種の存在証明と考えることができます。領主が単に領土の拡大のみに血道をあげるだけの人物だったならば、戦争に敗れ、あるいは病氣や老衰で死亡すればその存在は忘れられます。しかし収集され、あるいは領主の支援によって創作された芸術作品は、後世にわたり光を放ちます。

今回の特別陳列は、加賀藩の美術工芸を「収集」

と「育成」の視点から概観するものです。藩祖前田利家以来、前田氏と徳川氏は政治的な緊張関係にありました。二代藩主前田利長は、徳川氏による幕藩体制の統制下に置かれることで、前田家と加賀藩の安泰を図るといふ苦渋の決断をしました。しかし前田氏の、徳川氏への屈折した思いは継承され、三代藩主前田利常は政治や軍事ではなく文化で徳川氏に挑み、そのことを自己の存在証明としました。

前田利常の文化政策は、質・量において徳川氏を凌ぐ内外の名品、文物を収集することと、優れた芸術家を招き、幕府の待遇にまさる厚遇をして高水準の作品を生み出す環境を整えるという、「収集」と「育成」に大別することができます。そしてその方針は、博物学的に系統化される形で、五

代藩主前田綱紀に継承されました。

今回の展示作品から、まず「収集」に眼を向けると「名物裂」と総称される、主に明時代の中国で生産された織物が注目されます。今回は「蜀江錦」、「清水裂」など三点を展示します。また書跡、典籍では重文「栄花物語目録」と重文「小野道風書「白楽天常楽里閑居詩」が半期ずつ展示されます（十月二日に展示替）。美術工芸作品では鎌倉の荏柄社に伝来した重文「荏柄天神縁起絵巻」（下巻）と室町時代蒔絵の名品、重文「扇面散蒔絵手箱」、重文「伝周文作「四季山水図」」を展示します。そして「育成」については、前田綱紀の文化事業を語る上で欠くことのできない重文「百工比照」のうち、今回は外題紙類と織物類、小紋類を展示します。どうぞご期待ください。

重文 百工比照 織物類 江戸17世紀

重文 栄花物語目録 鎌倉12～13世紀

# 書跡と文房具

# 秋の優品選

7月16日(土)～9月6日(火)会期中無休

9月10日(土)～10月23日(日)会期中無休

本展の開催も残りわずかとなりました。前田家とゆかりの深い後水尾天皇や、その父君の後陽成天皇、皇子の御西天皇の書跡を展示しております。先日まで石川県立歴史博物館で開催の「宮廷の雅展 有栖川宮家から高松宮家へ」でも、関連作品が展示されていましたが、宮家と前田家のゆかりを再認識された方も多いことでしょう。こうした先人たちの精神性豊かな文化を新たな創造とともに後世に伝えていくことが、地域の活性化にふさわしい我々の責務と言えましょう。



瑪瑙石硯 宋10～13世紀

## 九月前半の展示

今回は特に『九谷名品図録』増補・改訂版の刊行にちなみ、当館が所蔵する作品を主体に展示しています。特に古九谷の小品は、近年展示されなかったものをまとめて展示していますので、古九谷の表現世界の広さや現代への影響などを再認識していただく好機といえることができます。再興九谷は、『九谷名品図録』の掲載順に合わせて紹介しています。作品解説や時代背景など、鑑賞の手引きとしてこの図録を大いに活用して頂きたいと思えます。



今回の特集は、当館の所蔵品から特に展示の要望が強いジャンル、作品を選びました。最初は久隅守景の「笹に兎図」です。この作品は、今年の干支として今年度の石川県立美術館友の会会員証に使用された他、当館ミュージアム・ショップで販売されている絵はがき、クリアファイル、一筆箋にも使用され好評を博しています。守景といえは「四季耕作図」ということで、今回は個人蔵の重要美術品と、人気の高い館蔵の重要文化財を前後期でそれぞれ展示します（十月二日に展示替）。続いて加賀蒔絵の名品として、初期五十嵐様式の貴重な作例の「蒔絵住吉図硯箱」、名工五十嵐道甫の作と伝えられる「蒔絵螺鈿秋月野景図硯箱」、

「繪菊慈童図薬籠箱」（以上石川県指定文化財）。同じく加賀蒔絵で重要な名工清水九兵衛作と伝えられる重文「蒔絵和歌の浦図見台」、前田家に伝来した「蒔絵亀図鞍・鐙」以上を会期を通して展示します。石川県立美術館といえは琳派とおっしゃるかたも多いと思います。今回は本阿弥光悦の「薄木版詩歌」、俵屋宗達の「檜檜図」（後期のみ）、尾形光琳の「蒔絵螺鈿白楽天図硯箱」（以上県文）他を展示します。その他に重要文化財「緑地桐鳳凰文唐織」、県文の伝岩佐又兵衛作「源氏物語図」なども加え、室町から江戸時代の美術工芸の精華を一堂に展示します。



重文 緑地桐鳳凰文唐織 桃山～江戸17世紀

## 第2展示室

# 古九谷・再興九谷名品展

7月16日(土)～9月6日(火) 会期中無休

## 第7展示室

# 第30回記念 二科会写真部石川支部公募展

9月1日(木)～5日(月)会期中無休 午後6時まで

◆**入場無料**  
◆**連絡先** (社)二科会写真部石川支部長工 俊治  
TEL 〇七六一一五五〇九七二

二科会写真部石川支部は、故林忠彦先生、故秋山庄太郎先生、大竹省二先生の示唆を得て、一九七九年に創設されました。中央展の会派として、地域の写真技術の向上と表現の開拓に挑む団体です。設立当時は、戦後の混沌とした生活実態の様子を写真に表現する写実を主とし、現在は、時代の変化に適合した新鮮で強い被写体を表現の美として追求した活動を続けています。公募展は、支部員相互間の親睦と写真技術の成果の発表を目的に開催されますが、今年度は三十回目を迎えることから、県立美術館にて厳選作品八十八点による記念公募展を開催します。ご観覧くださいませよう、お願い申し上げます。

## 第4展示室

# 西山英雄と一門展

—昭和の巨星と  
金沢美術工芸大学出身の俊英たち—  
7月16日(土)～9月6日(火)会期中無休

西山門下の作品を見渡していると、「日本画」の来し方を思わずにはいられません。近世の形式や筆法を重んじた諸流派の時代から、「日本画」という概念誕生をみた明治画壇への移行。そして昭和期の画塾全盛時代。画家の個性や思想を重視し、そのような画壇のあり方を打ち破ろうとした西山英雄とその門下の作品は、必然的に辿り着いた「現代日本画」本流ともいえるべき姿なのでしょう。西山門下を始め現代日本画壇の今後の変化が楽しみです。



秋の陽の下 中村賢次

### 九月前半の展示 九月の企画展示室

「夏休み親子で楽しむ美術館—さがしてみよう」の展示室、はじめて美術館で作品鑑賞をされたお客様もたくさんいらっしゃいます。「さがす活動は楽しい時間であつた」という間に時間が経った」「ただ絵をみるだけでなく、いろいろな視点で絵をみることを知ることができた」「季節をさがす作品では、親がそうなんだあと思ふような子どももその見方でその季節の理由を探していることを初めて知った」などの感想を聞かせて頂きました。この「さがしてみよう」の展示室を、楽しい美術鑑賞のスタートとして体験しにいらしてください。



## 第8・9展示室

# 2011 北陸二紀展

9月2日(金)～6日(火)会期中無休 午後6時まで

◆**入場無料**  
◆**後援** 北國新聞社 テレビ金沢 北陸放送  
◆**連絡先** 金沢市泉野出町二一六一九  
TEL 〇七六一二四三〇八八二

二紀会は「類型化を排する。具象・非具象を論じない。創造的な個性の発現を尊重する。情実を排し新人を抜擢し、積極的に世に送る」の主張を掲げて昭和二十二年以来六十五年活動を続けています。北陸二紀展は春の北陸二紀展に続き二紀会北陸支部会員が、第六十五回二紀展に向けて制作した作品を展示いたします。あわせて企画として北陸支部石川会の委員、会員の作品をさらに特別展示いたします。

## 第6展示室

# 夏休み親子で楽しむ美術館 さがしてみよう

7月16日(土)～9月6日(火)会期中無休

# 9月からの土曜講座

## 「私が選ぶこの作家、この作品」

九月十七日より始まる土曜講座を紹介します。秋の九月から十二月にかけて行う講座を、本年度の統一テーマによる講座としています。「私が選ぶこの作家、この作品」と題して、嶋崎館長以下、学芸員による九回のシリーズです。

受講は無料、申込の必要はありません。午後一時三十分までに講義室へお越し下さい。お好みの講座もしくは、都合のつく講座だけを受講していただいても結構です。

ただし、この九回の講座を石川県民大学の専門講座と位置づけました。県民大学校へ入校して、専門講座として受講を希望する方は、その申込が必要となり、九回すべて受講する必要があります。申込の手続きをはじめていますが、第一回目に申し込みされても間に合います。大勢の方々の参加をお待ちしています。

| 月日      | テーマ                | 担当者          |
|---------|--------------------|--------------|
| 九月十七日   | 石川県立美術館が収蔵保管する名作選  | 嶋崎 丞 館長      |
| 九月二十四日  | 運慶                 | 谷口 出 普及課長    |
| 十月十五日   | 柴田是真               | 西田 孝司 担当課長   |
| 十月二十二日  | 伝雪舟筆「四季花鳥図屏風」を読み解く | 村上 尚子 学芸主任   |
| 十一月十二日  | 俵屋宗達 風神雷神図         | 村瀬 博春 担当課長   |
| 十一月十九日  | 橋本仙雪               | 寺川 和子 学芸主査   |
| 十一月二十六日 | 高光一也 馬に凭る          | 二木伸一郎 担当課長   |
| 十二月十日   | 沼田一雅 一人と作品         | 北澤 寛 学芸専門員   |
| 十二月十七日  | 祇園会図               | 高嶋 清栄 学芸第二課長 |

## 9月の行事予定

|                    |   |           |      |
|--------------------|---|-----------|------|
| ■加賀百万石の文化講座 十三時三〇分 | 美術館ホール  | 聴講無料      |      |
| 四日(日)              | 「金沢戦国社会の風景」<br>講師 東四柳 史明(金沢学院大学教授)  |           |      |
| ■土曜講座              | 十三時三〇分  | 美術館講義室    | 聴講無料 |
| 十七日(土)             | 「石川県立美術館が収蔵保管する名作選」   | 嶋崎 丞 館長   |      |
| 二十四日(土)            | 「運慶」  | 谷口 出 普及課長 |      |
| ■ビデオ上映会            | 十三時三〇分  | 美術館ホール    | 入場無料 |
| 二十五日(日)            | 極める 匠の世界<br>「色絵磁器のシンフォニー」 色鍋島「十三代今泉今右衛門(二十六分) 極める 匠の世界<br>「琉球の女を紡ぐ」 喜如嘉の芭蕉布」 平良敏子(二十六分) |           |      |

## 第四十二回文化財現地見学(予告)

### 近江・いのりのかたち

―三館連携特別展「神仏います近江」を中心に―

日程／十一月十二日(土)・十三日(日)

今年の文化財現地見学は、文化財の宝庫滋賀県。信楽のMIHO MUSEUM、瀬田の滋賀県立近代美術館、大津の歴史博物館の三館が連携して開催する特別展「神仏います近江」が開催されます。この特別展を中心に、佐川美術館、三井寺などを巡る予定です。

※見学地や参加費など詳しい情報は十月号に掲載します。



流水のような木目が印象的な、シンプルな形の器です。艶やかな表面は、生漆を塗っては拭き取る工程を何度も繰り返す、拭漆ふきうるしという技法によるもので、木目の美しさを最大限に生かしています。波形に縮れさせた銀線を、側面の木地に嵌め込んで回らせ、小さな楕円形の髓べつごうと珊瑚さんごを交互に配したさりげない加飾が、おらかな器に繊細な趣を与えています。木工芸の魅力の原点に迫る作品と言えるでしょう。

作者の川北良造は、父であり山中木工職人から、作家としての道を開いた名工・川北浩一ひろいちの下で挽物の技術を学び、さらに木工芸の重要無形文化財保持者、氷見晃堂に師事して技術を磨きました。昭和三十七年(一九六二)第九回日本伝統工芸展に初入選して以来、同展に入選を続け、四十一年(一九六六)と四十二年(一九六七)に連続して、日本工芸会会長賞を受賞しました。その後監査委員や審査員を歴任し、平成六年(一九九四)に重要無形文化財「木工芸」保持者に認定されています。素材が本来持つ力を引き出したその作品は、作者の優れた技術のみならず、木という素材についての深い知識と親しみも感じさせます。

企画展「地域文化が育んだ美術館・博物館の名品展」(第5展示室)で展示中

## 次回の展覧会

|                          |                             |
|--------------------------|-----------------------------|
| 前田育徳会尊經閣文庫分館             | 第2展示室                       |
| 尊經閣文庫名品展<br>— 国宝 宝積経要品 — | 石川県の名宝<br>— 国宝・重文・県文 —      |
| 第4展示室                    | 第5展示室                       |
| 古澤洋子・五味祥子・山下晴子 展         | 竹工芸 橋本仙雪<br>— 古典とモダンのはざまに — |
| 企画展示室                    |                             |
| 第58回 日本伝統工芸展金沢展          |                             |

## ご利用案内

### コレクション展観覧料

一般 350円 (280円)  
大学生 280円 (220円)  
高校生以下 無料  
※ ( ) 内は団体料金

### 9月の開館時間

午前9:30～午後6:00

### カフェ営業時間

午前10:00～午後7:00

9月の休館日は  
7日(水)～9日(金)

 やさしさ品質

お土産・和洋菓子・生鮮・惣菜・レストラン

地階 **エムザ** 食品館

広告

“もっとお客様へ、もっと地域に”

MEITETSU  
**MIZA**  
めいてつ・エムザ  
金沢・むさしがは TEL代表(076)260-1111  
http://www.meitetsumza.com/

石川県立美術館だより  
第335号(毎月発行)  
2011年9月1日発行  
〒920-0963  
金沢市出羽町2番1号  
Tel:076(231)7580  
Fax:076(224)9550  
URL <http://www.ishibi.pref.ishikawa.jp/>